

四旬節第四主日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：ヨハネ福音 9：1-41

イエスは生まれつき目の見えない人を見かけられた。神のわざを人々に現れ、人々に見えさせるように、イエスが遣わされて、世界の光になる。イエスは唾をし、土をこねて盲人の目にお塗りになり、かれを池に行って洗わせた。イエスは安息日に盲人の目を癒したので、ファリサイ派の人々に罪人であると指摘された。さらに、イエスがこの盲人の目を開けることを信じない。ただ、目を開けられた人はイエスが人の子であり、主であることを信じて、ひざまずいた。

（二）カテキズムの響き： カトリック教会のカテキズム #1122-1124、1849、1962-1972、2173 又は、YOUCAT #336-337, 363

福音書は度々、イエスが安息日のおきてを破って、非難された出来事を報じていますが、イエスは罪人ではありません。罪とは、理性や真理、そして正しい良心に背く過ちであり、あるものへのよこしまな愛着による、神や隣人に対する真の愛の欠如であるので、イエスは決して安息日の神聖さを損なって、違法をしてはおられません。反して、イエスは、そのことについての真正な解釈を権威をもってなさいます。これは安息日は人のために定められたことです。安息日は主の憐れみの日であり、神を敬うための日なので、善を行い、人の命を救うことを正当化しておられます。人の子は安息日の主です。事実上、旧約の律法は啓示された法の最初の形です。その道徳的おきては十戒に要約されています。十戒とは、神への愛と隣人愛とに背くことを禁じ、すべての人の良心を照らす光なのですが、今、福音の法は、旧約の法、自然な形や啓示された形で与えられ神法のこの世における完成した形です。また、イエスの救い、聖霊の恵みによって、愛の法と呼ばれます。それはまた恵みの法であり、信仰と秘跡とに基づいて行動するための恵みの力を授けるからです。さらに、自由の法として、私たちが旧約の律法の儀礼的、法律的規制から解放し、愛に動かされて自発的に行動させます。

キリストが使徒たちを派遣され、使徒たちに福音を宣教し、さらに罪のゆるしを得させる悔い改めの洗礼という使命を授ける。確かに、秘跡は神の言葉とその言葉に同意する信仰とによって準備されるからです。秘跡は信仰を前提とするのみでなく、言葉と物とをもって、これを養い、強め、表すもので、そのための信仰の秘跡と言われます。秘跡は人々の聖化のため、キリストの体である教会の建設のため、神に礼拝をささげるものです。教会の信仰は一人一人の信者の信仰に先立つもので、信者はこれを受け入れるように招かれています。教会が秘跡を行うとき、使徒たちから受けた信仰を宣言します。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#392 罪とは、永遠の掟と神の愛に反し、人間の本性を傷つけ、人間の連帯を損なうことです。

#450 主日とは、ユダヤ教の安息日には、創造のわざの七日目に神が休息されたことであるが、

452 キリストが死と復活の救いわざによって、この日に込められた霊的真理を完成させ、神の元における人間の永遠の命を告げた日です。

最後の祈り：

救い主イエスよ、まことの光として、心の目を開き、あなたを信じ、その光を仰ぎ見る私たちが、暗闇の力に打ち勝つ恵みを与えてください。また、四旬節の間、聖霊によって浄化され、私たちは人間の欲、弱さ、罪から解放されて、いつも光の子として歩むことができますように。私達の主イエス・キリストによって。アーメン。